

平成 25 年度 第 1 回 獣医学共用試験委員会 議事録

- 1 日 時 平成 25 年 5 月 30 日 (金) 15:00 ~ 18 時 10 分
- 2 場 所 東京大学農学部 農学部 3 号館 105 会議室
- 3 委員
- | | |
|-----------------|------------------------|
| 酪農学園大学：山下和人教授 | 酪農学園大学：遠藤大二教授 |
| 北海道大学：稲葉 陸教授 | 北里大学：高井伸二教授 |
| 東京大学：尾崎博教授 | 東京大学：杉浦勝明教授 |
| 岐阜大学：北川均教授 | 岐阜大学：杉山 誠教授 |
| 麻布大学：浅井史敏教授 | 鳥取大学 澁谷 泉教授 |
| 北里大学客員教授：吉川泰弘先生 | 北海道大学：伊藤 茂男教授 (オブザーバー) |

4. 議題

1) 獣医学共用試験委員会小委員会からの進捗状況の報告

- (1) 共用試験委員会：高井 科研費交付申請書 (別紙 1-1)
○基盤研究(A)の平成 25 年度実施計画に関する確認 (別紙 1-2:内訳表) 内容説明と承認
- (2) 大学代表者会議：尾崎先生
○共用試験に関わる規則の制度化の検討
結果の取扱い、不正防止策、罰則規定等 (案) 作成：尾崎先生担当 (昨年度の会議録)

①結果の取り扱いについて議論を深めた。

各大学に任せるものであるが、社会に対する質保証の観点からは 60%を合格点とする。しかし、開始当初の数期間は、受験生も初めてであり、同時に、予想通りの点数となるような適切な問題セットが準備できるかどうか不確定要素が複数存在するので、「補正した 60%」という弾力的な対応を考えることとした。

これについては、16 大学にも周知するが、6 月の私立獣医科大学総会においても説明することとした。

②罰則規定については、尾崎先生に医学・薬学の例を参考に取纏めを依頼した。

③平成 28 年度からの本試験の実施時期についても、各大学のカリキュラムとの整合性の問題もあり、北大・稲葉先生から問題提起があった。

○獣医学共用試験機構の設置の検討

①平成 27 年 4 月には、一般社団法人として機構を立ち上げる必要がある。

②設置場所として、維持費などを考えると、日本獣医生命科学大学の構内にオフィスを間借りできるようなご配慮があるとのことで、新井学部長に依頼することとした。

③設置に向けての準備は、杉浦先生が出来る所から開始することとした。

④科研費は平成 26 年度までなので、27 年度については、16 大学からの会費によって運営されることになり、その点についても、詳細を詰めることとした。

(3) vetCBT 小委員会：杉山先生 (別紙 2-1 から 5 まで)

○問題精選の作業進捗状況

①各科目 100 題以内で精選作業が進んでおり、6 月中には終了させたいとのこと。

②精選ソフトも、実際に精選作業中に改良を重ね、使いやすいものになった。

○平成 25 年度の問題作成予定

①問題作成についてもマニュアルを改訂し、出来れば 16 大学で説明会を実施したい。

(4) vetCBT 問題 FM 委員会：平成 24 年第三回で、本委員会の任務終了宣言

○IT 環境担当：遠藤先生、マニュアル担当：浅井先生：発展的解消

問題評価の担当を杉浦先生にお願いした。

○共用試験の検証システムの導入：杉浦先生

①非公式に、医学 CBT の関係者に問題の検証について相談されているとのこと。今後も継続して、情報を入れて頂き、獣医学共用試験の検証システムを構築して頂くこととした。

(5) vetOSCE 準備委員会：北川先生

○vetOSCE の準備状況

平成 25 年 5 月 14 日小委員会開催 (別紙 3-1 から 7 まで)

①OSCE 実施上の問題点

②実習の実施案

③シミュレーター作成計画

④その他（別紙 3-2：採点表案）

①準備状況について別紙 3-1～7 を用いて説明があった。

②本格試験の際の標準クライアントについて、アニコムに派遣依頼をすることで合意。

各大学で養成する時間と経費を考えると派遣の方が、試験の標準化も可能となり、経費も安くなる。

③事前実習の DVD を作成し、各大学に配付。

④シミュレーターの開発費と本体価格の説明があった。OSCE 試験には各大学でシミュレーターを準備する方向で願います。

⑤OSCE 試験の評価者を養成して、認定する委員会の立ち上げの提案があった。

⑥OSCE のトライアル参加希望について 16 大学に希望確認をする。トライアルの実施は平成 27 年 2 月頃を予定している。

⑦文科省への OSCE 支援の依頼と、児玉課長補佐からのアドバイスに対する返答について、持参資料を用いて説明があった。

（6）トライアル実施委員会：山下先生・高井

トライアル案（別紙 4：参照）

共用試験実施概要の作成（平成 25 年度トライアルに向けて）

①トライアルに向けて、出題数、出題方式（ブロック数）などについて議論した。詳細は、CBT 小委員会と杉浦先生で詰めて頂く事とした。

②CBT 試験の実施時期について、本年 9 月の全国協議会の前の 6-7 月中に、16 大学に対して、各大学の実施時期のアンケート調査を行う事とした。

③同時に、各大学のコンピュータ室利用についても調査するが、ipad 等にと比べると、PC 利用はカンニング防止ソフトの準備が必要なことも事前にお知らせすることとした。

（7）広報委員会：澁谷先生

①HP で空白となっている項目について、提案があり、会員名簿については 16 大学を入れることで了承。受験生の皆様は、現時点では空白のままとする。

②機構の設立時には、HP も大幅に改訂となる旨の説明があった。

（8）問題作成・精選・トライアルのソフト開発：遠藤先生（別紙 5:見積もり）

①最初に、ソフト開発会社をどのように選択していったかの説明があり、島根県の 2 社とすることを承認した。

②問題収集システムは、平成 24 年度使用版の再構築中。精選システムは完成。試験システムは本年度開発し、9 月の岐阜大での獣医学会の際にデモが出来るようにするとのこと。

③受験生の使用するコンピュータについては、不正防止の点からは ipad 或いは ipadmini 相当品が最適であるとのこと。各大学の PC を利用する場合には、不正防止のための、各種ソフトを開発し、事前にパソコンで起動させる必要があるとのこと。開発経費とそれぞれの PC に購入して導入する経費もかかり、かなり面倒であることが説明された。

④CBT 試験の実施方法については、日本獣医生命科学大学の森田先生が熟知されており、現在、森田先生と相談しながら準備を進めているとのこと。幹事会では、森田先生にもトライアル委員（？）として参加して頂くように、願います事とした。

（9）OSCE 準備に関する予算措置の文科省へのお願い（別紙 3-3、3-4、3-5）とその回答（別紙 6）

①北川先生から説明があった。先の項目で説明済み。

（10）スキルラボなどの設置に向けた予算要求について（頭出し）

①各大学に OSCE 試験準備のためのシミュレーターを準備したラボが必要であり、これについても、どのようにラボを準備するか今後検討することとした。

（11）その他

テーマ募集・第 9 回獣医学教育改革委員会会議（於岐阜大）/橋本善春先生からの依頼

次回会議の議題として論議すべきテーマをお考えいただきそれぞれ、ご提案下さいませ。カリキュラムや学外臨床実習の将来など今後論議が必要なテーマも結構ですし、また上掲各テーマを深化させるご提案も有意義かと考えます。

北大・伊藤先生から、秋の獣医学会における改革会議のテーマについてご相談があった。

次回岐阜大学での改革委員会会議 9 月 21 日（土）9:00-12:00 に開催予定